
GLORIA GLORIA

ねり男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G L O R I A G L O R I A

【Nコード】

N O 2 4 2 H

【作者名】

ねり男

【あらすじ】

いい天気の日誰かが思うこと。

(前書き)

某CMっぽく。

その日の空は遠くまで青く透き通ってた。広く、吸い込まれそうな青空だった。綺麗だと思っただけど、同時に虚無感も覚えた。

その空に浮かぶ太陽はいつものように赤く輝いてたけど暑くはなかった。でも僕は血の方が赤いと思った。誰とも知らない人の血はこんなにも熱く、赤いものだったのか。

僕の血はこれほど熱く、これほど赤いだろうか。

僕はもう戻れない。この人も、もう帰れない。これから訪れる罪と罰は、一体どちらが重いんだろう。

その日の空は遠くまで蒼く澄み渡っていた。深く、飲み込まれそうな空漠だった。憂鬱だと思っただが、同時に抱擁感も覚えた。

その空に浮かぶ太陽はいつものように高く輝いていたが暑くはなかった。遥か彼方から、無情に、全力で、絶えなく。

だが私は心の方が熱いと思った。誰よりも、何よりも、ただひたすら勝ちたかった。負けたくなかった。悔しかった。飛び込んだ先で待つ人工の大地は、最後まで冷たかった。

私はもう戻れない。大事な人も、もう愛せない。これから訪れる声なき祝福と呪詛は、一体どちらが多いだろう。

捻れ、歪み、遂に破裂した他人事。曰く『誰でもよかった』。曰く『嫌になった』。自分でないなら何でもよかったのだ。何故なら他人だから。

血に塗れた手と、誰とも知らない亡骸を見下ろす少年の目に、未来など映ってはいなかった。後悔という言葉さえ持ち合わせていなかった。ふと見上げた蒼い空は吸い込まれそうなほど深く、空漠としていた。

それまでの時間は長くはなかったが、空はそれでも全身を包みこんでくれた。そのせいだろうか、その先にあるのは甘く、緩く、そして懐かしい滅びの扉に思えた。

空を仰ぎ、大地に背を預ける。そしてそれを手放す間際に、ふと思い出した。

あの時の空も、遠くまで青く透き通っていたと。広く、吸い込まれそうな青空だったと。

空はこんなにも綺麗なのに、自分の血は、いつか見た誰かの血より淀んでいた。太陽の方が赤いとさえ思った。

空と太陽と、栄えある希望は彼に終焉を告げた。彼はそれを受け入れた。彼はもう戻らない。帰らない。

人が人を、或いは、己を。それは讚美に満ちた狂気と共に、飽くことなく繰り返される。

太陽は高く眩しく、空は青く果てなく、そんなある日の出来事だった。

(後書き)

同タイトルの聖飢魔2の歌をやらかしました。悪魔の皆さんごめんなさい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0242h/>

GLORIA GLORIA

2010年11月27日06時04分発行